

とんど超満員の日が多く、日曜日には開館前から約300名近く玄関前にならび、開館とともに満員になり係員は人員の手不足に悩みながらも、適切な体制をとって奉仕に努めている。

このように図書館利用者の82.5%は学生、生徒によって占められているが、これら利用者の増加にともない、混雑防止の対策として、昨年12月座席を増加しその緩和につとめた。

なお、一般成人の方々には特別参考室を開放し、展示室にも臨時に学生、生徒の読書室として24名分の席をふやした。

各室名	座席増加数	現在各室収容員数
第1読書室	16	114
第2	8	120
第3	2	72
レファレンス室		6
特別参考室	18	
展示室	24	
計	68	312

② 快適な読書環境のなかで図書館を利用出来るような対策

前記にもあるように利用者の大半が学生、生徒と浪人によって占められている関係上、とかく血気盛りの若い学生、生徒の中には、望ましくない者も一部見受けられ、専心勉学に励む学生、生徒や調査研究に余念のない一般成人に対し、少なからず迷惑をかけ、著るしく読書環境をそ害する傾向があった。そこで、その対策として、市内高校、校外生活補導協議会の補導係担当教員の協力を依頼し、本年1月から3月までの間市内高校生の本館利用状況を巡視の上、好ましくない学生、生徒の補導を行なう一方、公共施設利用についても指導することとして、最も快適な読書環境のもとで、学生、生徒も一般成人も図書館を利用できるよう努めている。

3 読書傾向

利用人員は増加しても、利用冊数は半数に充たない。これは学生、生徒利用者のうち84.6%は場所のみの利用にすぎず、図書館資料は利用していないからである。

利用冊数から読書傾向をうかがってみると、館内では36.5%をしめる児童図書を除いて、文学の7,867冊がトップで雑誌、社会科学、歴史の順になっている。文学が多く読まれているのは出版数からみても、また所蔵数からみても当然で、例年と変りなく、これは全国的な傾向である。

館外(個人貸出)では、やはり文学の3,456冊

を筆頭に社会科学、歴史、哲学の順になっており、館内に比較すると2位以下においては全く異った傾向を示している。然しこの傾向は大体例年と同じである。

昭和36年4月～昭和37年3月まで

職業別	職業別利用者数		
	館内	計	比率
中学生	17,031	17,031	13.3
高校生	60,131	60,131	46.8
大学生	18,686 (3,267)	21,953	17.1
教育家	394 (102)	496	0.4
官公吏	2,157 (1,549)	3,706	2.9
銀行・会社	1,687 (580)	2,267	1.8
農業	215 (32)	247	0.2
商業	395 (167)	562	0.4
工業・技術者	280 (164)	444	0.3
その他	2,019 (252)	2,271	1.8
主婦・無職	11,930 (475)	12,405	9.7
児童	6,863	6,863	5.3
計	121,788 (6,588)	128,376	100%
男	76,415 (4,099)	80,514	62.7
女	45,373 (2,489)	47,862	37.3
計	121,788 (6,588)	128,376	100%

註()内の数は館外個人貸出を示す。

開館日数、館内281日、館外263日 一日平均利用者数433.4人(25人)計458.4人

分類別	分類別利用図書冊数		
	館内	計	比率
総記	2,105 (189)	2,294	3.7
哲学	1,024 (393)	1,417	2.3
歴史	3,050 (484)	3,534	5.7
社会科学	4,323 (1,196)	5,519	8.9
自然科学	2,564 (366)	2,930	4.7
工学・家事	1,629 (154)	1,783	2.9
産業	1,007 (156)	1,163	1.9
芸術	1,537 (293)	1,830	2.9
語学	1,403 (185)	1,588	2.6
文学	7,867 (3,456)	11,323	18.3
雑誌	5,862 (50)	5,912	9.6
児童図書	22,550	22,550	36.5
計	54,921 (6,922)	61,843	100%